

(44)

堺焼結工場における低 FeO, 低 SiO₂ 操業

新日本製鐵㈱ 堀製鐵所 橋本信, 香川正浩, 芳我徹三, ○中村圭一
 基礎研究所 肥田行博
 生産技術研究所 佐藤勝彦

1. 緒言 : S 56 年以降, 原料事前処理技術の改善, 低温焼成などを柱として, 低 FeO, 低 SiO₂ 化を行ってきた。その結果, 現在では, SI, RDI を良好に維持しつつ, 原料銘柄特性を生かして被還元性の改善を図る操業方法がわかつてきた。本報では, 低 FeO, 低 SiO₂ 操業下での RDI 及び被還元性について報告する。

2. 低 SiO₂ 操業下における RDI 対策 : Fig. 1 に示す如く, RDI は原料微粉部分 Al₂O₃/SiO₂ と強い相関関係にある。⁽¹⁾ 低 SiO₂ 化に際しては, 低温焼成を推進するとともに, 微粉部 Al₂O₃/SiO₂ を調整することにより RDI の維持を図った。豪州系高 Al₂O₃ 鉱石の高配合下では, 微粉碎蛇紋岩や低 Al₂O₃ 微粉鉱石を配合することが, 低 SiO₂ を指向する上で有効であった。

3. 被還元性について : Fig. 2 にリモナイト系鉱石の配合割合と被還元性の関係を示す。高温焼成下では明確でなかったが, 低温焼成下では, リモナイト系鉱石を高配合することにより, 被還元性が改善されている。被還元性の比較的高い実機焼結鉱の組織観察によると, 溶融性の高いリモナイト系鉱石の元鉱が微針状カルシウムフェライトをボンドとして残存していることがわかる。(Photo-1)

以上のことから, リモナイト系鉱石高配合の下では, 低温焼成により被還元性の良好なリモナイト鉱石を元鉱の状態で残留させることができ, 被還元性の改善に対して有効な手段となることが実機により確認できた。

4. 結言 : 低温焼成, 微粉部 Al₂O₃/SiO₂ 調整などにより, リモナイト系鉱石高配合の下で RDI を良好に維持しつつ, 低 FeO, 低 SiO₂ 操業を行っている。(Fig. 3)

また, リモナイト系鉱石高配合の条件下では, 低温焼成を行い, 被還元性の良好なリモナイト鉱石を残留元鉱として残すことにより, 焼結鉱の被還元性を改善することができることを実機データにより確認できた。

参考文献(1) 戸田ら: 鉄と鋼, 69 (1983) 4, S 37

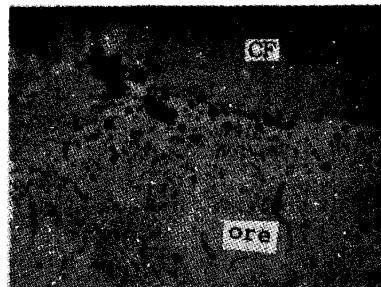


Photo-1. Microstructure (Sinter)

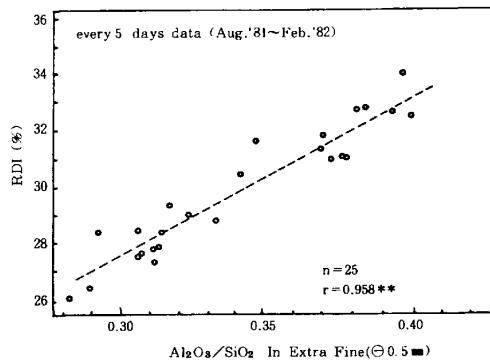


Fig. 1 Relation between Al₂O₃/SiO₂ in extra fine and RDI

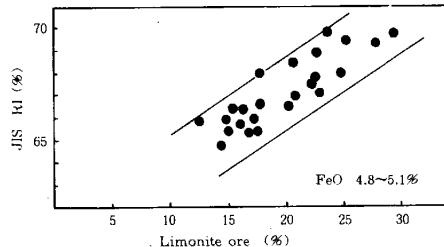


Fig. 2 Effect of Limonite content on JIS-RI.

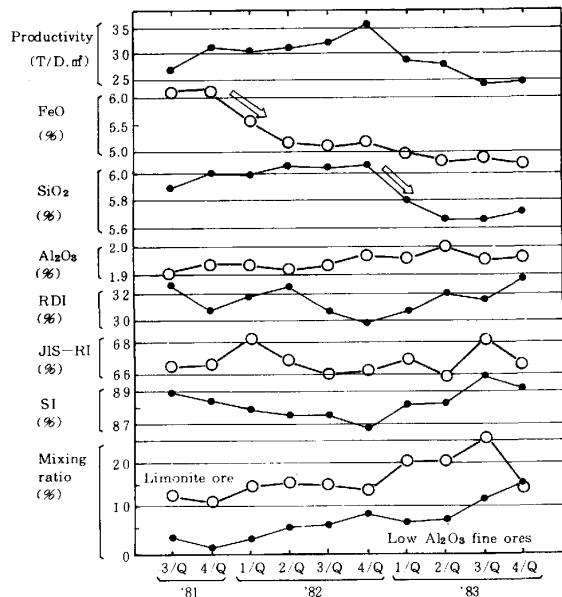


Fig. 3 Operating data